同期会開催等について

同期会開催支援金制度について

同窓会では、同期会開催の活性化を図るため、「同期会開催支援金制度」を昨年度より設けております。昨年度は、４件の同期会を支援致しました。内訳は、３件の周年同期会で各５万円、１件は卒業後初めての同期会で10万円を支給致しました。

本年度も各期の幹事の皆様は、是非とも活用していただきたいと思います。尚、申し込み方法等、詳細は『同窓会ホームページ』にてご確認願います。

何卒、よろしくお願い致します。

年度会費について（71期までの会員様）

日頃は、浅野学園同窓会の会務運営に際しまして、会員の皆様方の多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝致しております。この場をお借り致しまして、深く御礼申し上げます。

当会の年度会費は約30年以前の改定以来、長年会費を据え置いたまま運営をして参りました。しかしながら、急激な社会経済情勢の変化等に備え、また中長期的に持続可能な財務運営の実現を図るべく、2023年度より年度会費（2,000円→3,000円）の改定を実施させていただきました。会員の皆様にはご負担をおかけしますが、諸般の事情をご賢察頂き、ご理解を頂くとともに、引き続きご支援とご協力を是非賜りたいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

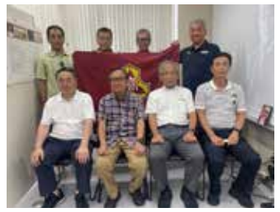
財務委員長　西田　慎也（65期）

【年度会費 お振込先口座の追加について】

会員の皆さまの利便性向上のため、2023年度より下記金融機関を追加させていただいております。お振込の際は、ご依頼人名を「卒業年（西暦）＋お名前」として頂けると大変助かります。どうぞよろしくお願いいたします。

横浜銀行
大口支店　普通預金　1642590　浅野学園同窓会

同窓会の部屋



第46回の打越祭は、９月14日（日）、15日（祝）の両日、天候にも恵まれ、湧井会長のもとTeamWAKUIのメンバーで、昨年同様「同窓会の部屋」を設けました。同窓会生の皆さんをはじめ、在校生の父兄の方々、当学園への受験をお考えの親御さんとご子息、たくさんのお運びを頂き、心より御礼を申し上げます。

同窓会員のパネル紹介は新たに４名を加えて23名を掲示して、ご来場の皆さんへご案内を差し上げご好評を博しました。お陰様で学園100周年のバスタオルとネクタイも完売致しました。また、お隣の賛助会さんの来場者を「同窓会の部屋」へ導いて頂き、学園のステークホルダーとしてお互い有機的なコラボレーションの足掛かりになりました。ありがとうございました。昨年度からスタートした「同期会開催支援金制度」の積極的なご活用が、同窓会の更なる発展の礎の一つかと拝察しております。

最後になりましたが、学園祭の前日の準備や搬入、当日の運営などにご協力頂いた同窓会委員の皆さん、お疲れ様でした。感謝です。

総務委員長　石井　晋一（56期）

編集後記

申し込みフォーム

広報誌「銅像山通信」

平素は、広報誌「銅像山通信」・ホームページ・フェイスブックグループをご覧いただき、誠にありがとうございます。最近は「いつも見ています」と声をかけられることも多く、励みになっています。フェイスブックグループの人数も1,300人を超え、同窓会に関心を寄せられる方も増えてきています。毎年６月に開催される総会への参加者も増加傾向にあります。現在、編集等を手伝ってくれる方を募集しています。是非お気軽にご連絡下さい。周りのQRコードよりお願い致します。

広報委員長　星　淳一（59期）

浅野学園同窓会
ホームページ

フェイスブックページ
グループ「銅像山通信」

銅像山通信

第28号

撮影：古梶裕之校長

浅野学園同窓会会報

2025年度版

発行日：2025年12月25日　発行人：浅野学園同窓会

ご挨拶

各界で活躍する浅野卒業生

浅野学園同窓会
会長　湧井　敏雄（45期）

連日のように、海の向こうから耳を疑うような事態が報道され、異常気象が常態化したかのような気候変動に見舞われると、かつて慣れ親しんだ世界が音をたてて崩れていくような感覚に襲われます。これまでは、いろいろな分野で「同じようなことを経験したことがある」と感じる事態が少なくなかったのですが、最近は「全く新しい」事態の連続で、これから先はどうなるのだろう、と不安を感じます。

しかし、例えば経済や政治などの分野では、全く新しいと思っていた多くの事象が、実は過去にも起きたことがあることに気づかされます。国内産業復活を目的とする某国の関税政策も、実は先祖がえりであることは、多くの識者の指摘するところですし、不動産不況が経済の重荷となっている隣国の事態も、我々には「バブル崩壊」ですでに経験済みのことであったりします。気候変動も、超長期で見れば温暖化と寒冷化の繰り返しであったことも、周知の事実です。個々人にとっては「未経験の事態」ではあっても、社会全体では「すでに経験済みの事態」で、社会の共有財産になっていることが、実は少なくないのです。

浅野学園の卒業生も、「浅野のOB」であるという共通の属性を持つ、一つの「社会」を形成しています。100年を超す歴史を誇る「浅野」ですから、一言で「浅野の卒業生」と言っても個々人の活躍分野は多岐にわたっています。古いデータで恐縮ですが､平成16年の「銅像山通信」によれば、判明している限りではありますが、第１期生からの卒業生の累計の職業分布のトップ５は、製造業が28％、金融･証券･保険や、医師・会計士・税理士・弁護士等のいわゆる「士師業」が各々13％台、建設・建築が８％台、公務員が７％弱となっています。昔から「友人を持つなら医者と弁護士、会計士」と言われますが､我々の生活に密接に関連する「銀行などの金融関連・医師や弁護士、会計士」で、全体の1/4以上を占めているのが特色かもしれません。現在では、特に｢士師業｣の比率はもっと高いのではと思われます。また、それ以外の職業も多岐にわたっています。浅野のOBは、あらゆる分野にわたる経験を有する成員によって構成される「成熟し発達した」社会を形成しているのです。１万人を超すＯＢの存在は浅野卒業生の素晴らしい共有財産です。

この財産を共有するためには、同期会といった横のつながりだけでなく、期を超えた縦のつながりが不可欠です。同窓会では、昨年来同期会の開催を支援する施策を展開してきましたが、今後は、OB間の期を超えた縦のつながりをいかに支援するか、さらに浅野OBの結節点である母校に対する関心をいかに高めていくかなど、ホームカミングデイなどを含め検討してまいります。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

白と紺のポロシャツ

浅野中学校・浅野高等学校
校長　古梶　裕之（61期）

卒業生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

2025年の夏休みはことのほか暑く、雨の少ない夏でありました。それでも生徒達は日々元気に登校してきて部活動や文化祭の準備、校内合宿、講習や自習に励んでおりました。銅像山で虫取りをしている生徒の姿も見かけました。合宿に出かけてゆく部活も多かったです。校外合宿では休暇を取って参加いただいたOBの方々もいらっしゃいました。ありがとうございました。

さて、この４月から学校の制服に新しいものが加わりました。白と紺のポロシャツです。生地やデザイン、色などすべて生徒主導で決めていきました。

２年ほど前に生徒会より、ポロシャツを要望する意見が出ました。「夏は近年、とても暑いし、Yシャツの洗濯やアイロンがけも親が大変なので、ポロシャツを導入してくれませんか？」というものでした。校長室に生徒会長と生活向上委員会の生徒がやってきて、話をしていきました。もともとは生徒が言い出して始まった企画でした。生徒会顧問部、生徒指導部の審議と職員会議での決裁を受けてポロシャツの導入が決まりました。私が生徒に求めた条件は一つだけで「カッコいいものを作ってください。」ということだけでした。

その後、生徒と保護者に導入の賛否や購入希望などのアンケートをとり､｢ポロシャツ制服検討委員会｣を設置して、本格的に導入に向けて動き出しました。検討委員会は教員だけではなく、生徒会役員とPTAの方々で構成しました。

業者の方々にも協力してもらい試作品が学校に届き、マネキンに着せて職員室の前に展示して生地やデザイン、胸に入れる「ASANO」の字体、学年色のワンポイントをどこに入れるのか、などをフォームの投票で決めました。生徒が拘った一番のポイントは「胸ポケット」でした。これは意外でした。私の感覚ではポロシャツは胸ポケットがないことがカッコイイなという考えだったので驚きました。スマートフォンが入るわけでもないポケットに生徒達は何を入れたいのかを訊いてみると、「イヤホン」を入れたい、とのことでした。ズボンの中に裾を入れずに外に出して着用することを想定して、丈は少し短めに作りました。学年色は袖口に正方形で控えめに入っています。生徒達には好評のようです。どちらかというと、紺を着ている生徒の方が多いかな、という印象です。

これも生徒達の想いと行動力から実現したものでした。そんな生徒達を頼もしく思います。

浅野中学校・浅野高等学校の近況報告

2024年度 部活動 活動報告

浅野の三本柱：部活動　部活動に参加し心身を鍛える

部活動は学園生活を豊かに広げ、心身を鍛える絶好の場です。活発な活動を通して、生徒たちは自らの夢と可能性に挑戦するために、体力的鍛練・学究的努力・技術的修練・精神的陶冶を重ね、リーダーシップや協調性・判断力・ルールの意味などを学んでいきます。

浅野学園の進学指導・進学実績

今年も多くの本校卒業生が難関国公立大学・私立大学に挑みました。今春の卒業生は志の高い生徒が多く、本校の直前講習に多くの生徒が参加し、下校時刻まで教室で自習している生徒が多く見られる学年でした。

高校３年の初めにはまだまだ高い目標であった第一志望を目指して学習に取り組み、途中なかなか結果が出ない状況でも最後まで諦めず努力した結果、多くの卒業生諸君が難関国公立大学・難関私立大学に合格しました。

合否の結果にかかわらず、まずは各々の目標に向かって努力を重ね、挑戦した卒業生諸君に敬意を表したいと思います。

メディア露出

①2025年４月９日『THE TIME』全国の中高生ニュースで浅野中学校３年生の塩見瑛太郎君が「天才！折り紙クリエイター」として紹介されました。
②2025年４月21日『呼び出し先生タナカ』で2025年度の理科の入試問題が取り上げられました。
③2025年５月27日「毎日新聞」令和のリアル 中学受験に古梶裕之校長が取り上げられました。「中１秋の成績が大学受験に影響」カギ握る進学先選び
④2025年９月９日『全国高等学校クイズ選手権』神奈川県代表に選出されました。

浅野学園所蔵貴重資料コレクションのデジタルアーカイブ事業の紹介

デジタルアーカイブから浅野翁の人生を辿る

史料室　認証アーキビスト
長井　　勉（44期）

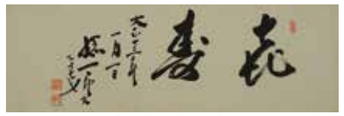
様々な分野でDXが進む時代、特に歴史資料のデジタル化は多様な利活用に変革を与えています。例えば、博物館がない自治体は価値ある歴史資料や歴史文化財をデジタル化してデジタルミュージアムを創出することができます。このような利活用を目的に浅野学園（以下、「学園」という）のHPからデジタル化された歴史資料が閲覧できるようになって１年半が経過しました。そこで本稿では、デジタル化への経緯などについて報告をしたいと思います。

退職された先生方などの尽力によって、保存資料類の目録作成などの作業を積み上げてきたことが基盤となっています。そして展示スペースなどのリニューアル化された史料室の再整備に併せて、2022年度から書籍・資料のデータベース化を検討することになりました。筆者がこのPJに関わるようになったのは、自治体の文書管理システムのビジネスに携わったことから、また『公文書館紀行』を発刊し､2021年に国立公文書館「認証アーキビスト」(2024年度まで約320名)の資格を得ていたことでした。既存の目録と現物の照合と収納整理、分類の見直しなどが主な業務でしたが、2023年度から図書館振興財団の助成金を活用し、デジタル化を実施することになりました。貴重な写真・資料などのデジタルアーカイブによって、我々が共有すべき浅野翁の近代化への事績などをHPから後世に伝えることが目的で、「死んだ後まで、社会に益することを志す」という言葉を遺した浅野翁をデジタルアーカイブから読み解くことができます。

史料室には約１万点の歴史資料・写真、約200点の書籍、約70点の書画が保存され、今回のデジタル化の対象になったのは、浅野翁関連の書籍約10点と水崎基一初代校長関係の書籍・資料など約２千画像、浅野翁自筆の書画約70画像、写真約400画像の他、浅野翁の船上生活を撮った龍田丸フィルムでした。書画・写真には１点ごとにメタデータも作成しました。

2024年５月、学校資料のデジタルアーカイブ化事業として神奈川新聞にも取り上げられ、司書の指田章先生と一緒に紹介されました。まだ一部しか公開していませんが、今後はデジタル画像から明治から昭和期の浅野翁を辿り、併せて学園の歴史を紹介したいと思います。最後に、ご協力頂いた教職員の皆様に御礼申し上げます。

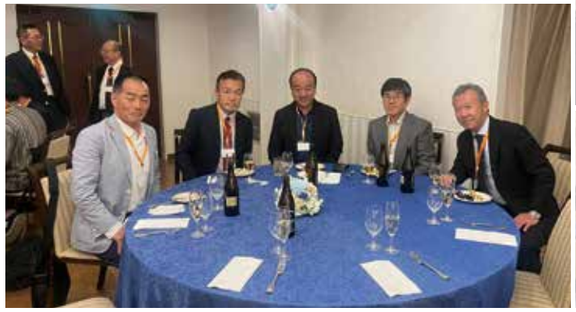
浅野セメントの東京工場



1924年浅野翁、喜寿の年に書かれた書画
（浅野学園史料室所蔵）

2025年度 浅野学園同窓会 総会・懇親会

日時　2025年６月７日（土）
会場　KKRポートヒル横浜



佐藤親睦委員長より 総会・懇親会の感想

本年度の総会・懇親会は、港の見える丘公園に隣接した「KKRポートヒル横浜」という横浜港を一望できる素晴らしい眺望のホテルで開催されました。

総会に於いて、親睦委員会は昨年度より施行された「同期会開催支援金制度」の運用状況（昨年度中、４件の支援実績）を報告致しました。また、懇親会は昨年度と同じく種々の物価高の影響を受けましたが、会場となるホテルの協力のもと、会費を抑え開催することが出来ました。

今回も92期、95期の若い卒業生の参加があり、来年度も楽しみなものとなりました。

余談ですが、「KKRポートヒル横浜」は、この７月末をもって閉館となり、横浜らしい眺望は、見納めとなってしまいました。

親睦委員長　佐藤　義賢（52期）

同期会報告

45期同期会

我々45期は、去年11月9日、恒例の同期会を開催しました。45期同期会は古川他、葛野君、重田君らの有志幹事グループのもと、早くから折に触れて不定期で開催していましたが、2014年以降、「今会っておかないと会えなくなる」と、原則として毎年11月に新子安の居酒屋「きしや」で開催することとしました。残念ながらコロナウイルスの感染拡大により、2020年から22年までは開催出来ませんでしたが、23年5月に再開、今回は皆75歳になることから、同窓会から支援金をいただき、「後期高齢者到達記念」と銘打って恒例の11月に開催することとしました。

当日は、我々45期としては初めての試みとして、「ホームカミングデイ」も実施しました。懇親会の前に希望者が15時50分に新子安駅前に集合し、その足でなつかしい浅野に向かいました。卒業後初めて浅野を訪問する同期も少なくなく、皆浅野のロケーションの良さと銅像山の緑のすばらしさを再確認するとともに、校舎の変貌ぶりに驚いていました。懇親会は新子安駅近くの「きしや」で17時から開始、亡くなった同期への黙祷の後は皆お互いの旧交を温め、近況を報告しあい、和気あいあいと進行しました。当日は高校から他校に転出した同期も含め、学園見学会には21名、懇親会には36名の同期が参加、ほぼ前年並みの参加者数でしたが、物故者も少なくなく、漸減傾向であることは否めません。全員が75歳となり、寄る年波には勝てず、残念ながら有志幹事グループは一旦解散することとしました。今後は思い立ったものが声をかける「同期会の同窓会」が開催出来れば、と考えています。

古川　高夫（45期）

46期同期会

46期卒業55周年同期会は、５月17日に横浜駅西口のホテル「ザ・ノット ヨコハマ」で開催されました。後期高齢者となった参加者もいて、参加できなかった人は体調不良の理由が多かったですが、それでも遠くは山形市からの人も含め49名が参加。今回は浅野学園同窓会の「同期会開催支援金制度」を利用させていただきました。

開会の挨拶、物故者28名に対しての黙祷、乾杯と続き、会が始まり、各クラス久しぶりに会う人、同期会初参加の人が高校時代の思い出や近況の話題で盛り上がりました。誰彼となく話題になったのが浅野の東大合格者数を含めた進学実績。そして、我々が今浅野中学を受験したら誰も合格しないのではないかと爆笑の中、楽しい会の時間は過ぎ、校歌を斉唱し、次回は２年後の喜寿の同期会で会うことを約束し終了しました。

田川　博幸（46期）

100期同期会

浅野中学校・高等学校を100期生として卒業いたしました、坂本優樹です。先日開催いたしました同窓会の報告をさせていただきます。去る１月12日に、同期生たちの成人を記念し、「グレースバリ横浜関内店」にて同窓会を開催しました。2023年に浅野中・高を卒業した私たちにとっては、これが初めての同窓会開催となりました。同期生の参加は206名に及ぶなど、大規模な開催となり活況を呈しました。さらに、中・高で担任を務めていただいた先生方３名にも出席していただき、充実した時間を過ごすことができました。

今後も、卒業10周年など、節目の年に同窓会を開催していきたいと考えております。これから同期生が世界的な活躍を見せていくと考えると、集まることもなかなか難しくなってしまうのではないかと想像してしまいますが、次回の同窓会でも、また多くの同期生と時間を共にできることを願っています。よろしくお願いいたします。

坂本　優樹・吉田　遼・伊藤　貴仙・山崎慎ノ介・月間　大地（100期）

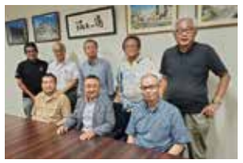
山岳部OB会（打越会）の現状

大正14年に生まれた歴史ある山岳部。あの有名な「山男の歌」の歌詞は浅野の山岳部に発したものとレコード会社の著作権の問題から判った、と云う。年間５・６回の合宿を通じ丹沢で鍛え、尾瀬、奥秩父、八ヶ岳、北・南・中央アルプス等にも多くの足跡を残した。又、多くのOBがより高度な山を目指し、大学山岳部に入り、1965年OB ６名により３カ月間を費やして、前人未踏の南北アンデス山脈に入り、６千メートル前後の処女峰含め多くの山頂を極め、高校山岳部のOB会としては画期的な海外遠征と云われた。

残念ながら山岳部は既に無くなっているが、OB会（打越会）は存続している。毎年、定時総会等を開催している。母体が無くなって、会員の平均年齢は年々上がり、往年の面影はないが、未だに「おい、お前」の仲であり、懇親会は盛り上がる。（写真はコロナウイルス感染症の流行後に久しぶりに開催した2023年秋の定時総会）

神崎　敬二（第５代OB会長）

浅野総一郎「九転十起人生塾」を開塾



校訓にして校歌に歌い継がれる「九転十起」。卒業後、幾年の風雪を経て、今改めてこの言葉を噛みしめています。日本が元気を失いつつある現在、私たちに求められるのは、たとえ失敗してもそこから何かを学び取り、成功するまで何度も挑戦し続ける「九転十起」の精神ではないでしょうか。この塾は、幾多の試練を経て数々の大事業を成し遂げた浅野総一郎翁の生き様を学ぶとともに、様々な分野で活躍する諸先輩から、「九転十起」の精神に通じる生き方を伺うことで、浅野スピリットを育もうという狙いで始めました。

初回（参加者７名）は、浅野学園史料室にて長井勉先輩（44期）から「浅野総一郎の初めての事業と九転十起の人生」と題し、当時の記録フィルムや映像を駆使しながら１時間超にわたってお話しいただきました。２回目（参加者８名）は、上星川で天然温泉「満天の湯」を営む森山元明先輩（52期）を訪問。捺染事業からスーパー銭湯への業態転換でのご苦労、経営上の取り組み、接客業として心がけていることなどお話しいただいた後、参加者一同、温泉で癒され、店内食事処で懇親を深めました。

３回目は、12月に関内の「天吉」で伊東潤君（56期）を迎えて、忘年会を兼ねて開催します。来年以降も年数回開催予定。ただ学ぶだけでなく懇親も深めていければと思っています。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

根本　英明（53期）

OBの近況

モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合理事長
神奈川県商店街振興組合理事長
伊藤　博（38期）

令和７年春の叙勲に於きまして、旭日小綬章の栄に浴する事となり、大変な名誉なことと恐れ入る次第です。私自身、東急東横線元住吉のモトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合の理事長として20年、副理事長として16年、合計36年間、商店街発展の為に尽力して参りました。また、神奈川県商店街振興組合理事長として10年。これらが評価され受賞の対象となったようです。

ブレーメン通り商店街は、今では全国から視察が訪れるほど有名になりましたが、ドイツ･ブレーメンとの国際交流が今年で35年。商店街のメンバーで編成しているビッグバンド、全国で初めてのシステムで運用しているICカードのポイント事業、更には子供たちから大人気の戦隊ヒーロー等、他の商店街が真似のできない様々な事業を展開して有名になりました。皆様もお近くにお越しの際はメルヘンチックな商店街、ブレーメン通りへ是非いらしてください。

YSKホールディングス
株式会社
代表取締役社長
河合　昭彦（54期）

1977年に浅野高校を卒業後、東海大学を経て祖父の会社・横浜商工株式会社に入社。自動車整備業者向けに部品や設備を提供し、地域の安全・快適なモビリティ環境づくりに携わってきました。1998年に社長就任後、通信事業を立ち上げ県内にAUショップを19店舗展開。さらに高齢化社会に対応すべく電動車いすのレンタルなど福祉事業も開始しました。現在はホールディングス体制へ移行し、５社を束ねるYSKホールディングスの社長を務めています。「神奈川の自動車・モビリティを支えて地域を豊かにする」を理念に、73歳まで現役で走り続ける所存です。

体力維持に努めながら、仕事とともにゴルフやダイビングも楽しんでいます。還暦を過ぎて、同級生とゴルフをしたり、飲み会だったり、集まる機会が増えてきました。中高一貫教育の成果で直ぐに20人くらい集まるのは嬉しいですね。感受性の強い時期に一緒に過ごした同級生は、一生の友達として大事な宝物になっています。

千葉大学真菌医学研究センター
准教授
矢口　貴志（57期）

早稲田大学４年生のとき､研究室を選ぶ際に「微生物の持つ無限の可能性」という言葉に惹かれ、微生物の研究室に入りました。それ以来、カビの研究を続けています。修士課程では、有機酸を産生するカビの育種をテーマに研究を行い、製薬会社に就職してからの17年間は、カビが産生する医薬品に応用可能な有用物質の探索に取り組みました。2003年に千葉大学真菌医学研究センターに赴任してからは、人に健康被害をもたらすカビの分類や菌学的性状の研究を行い、現在に至っています。そのため、梅雨時期になると、テレビ・雑誌などのメディアから、生活環境に存在するカビが健康に与える影響、その生息場所、カビの繁殖を防ぐ方法などについて解説を求められることが多くあります。

また、中学・高校時代には剣道部に所属しており、卒業後も細々と稽古を続けてきました。現在は週に１～２回、地域の剣友会や医学部の剣道部で稽古をしており、月に１度の浅野剣道部OB稽古会にも参加させていただいています。

株式会社サクマ
代表取締役
佐久間　務（57期）

昭和55年に卒業後、明治大学を経て約９年間株式会社横浜銀行にお世話になりました。その後家業を継ぎ、現在は横浜市鶴見区に本社を置き、横浜、横須賀、座間、相模原を中心に不動産賃貸業を営んでおり、令和９年には創業100周年を迎えます。仕事以外では､横浜青年会議所やロータリークラブに所属し、まちづくりや社会奉仕、国際奉仕に従事し、奉仕活動を通じて「利他の心」、自身の利益や欲求よりも他者の幸福や利益を優先して行動する事を学び、周囲の人々との信頼関係、人間関係の構築に大いに役立ちました。

在学中は中学・高校と６年間軟式テニス部に所属し、テニスは大学の４年間も続け､社会人になってからはゴルフに目覚め現在まで歴だけは20年を超えようとしています。また50の手習いを地で行き、55歳からキックボクシングを始め現在８年目、体脂肪率12%、体年齢48歳と格闘家らしくなってきました。これも中学時代から鍛えてきた基礎があっての事であり、心身の鍛練にゴールはなくこれからも日々精進を続けていきたいと思います。

東急株式会社
常任理事調査役
村井　淳（58期）

1981年に卒業以来、学園に何の貢献もない自分が、せめてもの償いと思い、筆を執りました。私は大学を卒業後、東急電鉄に入社。会社管理等の部門を歩み、人事担当の役員を経て、2021年に株式会社東急ホテルズの代表に就任しました。

当時はパンデミックの最中、事業も存亡の危機に瀕していました。23年に運営に特化すべく会社再編を進めて新会社を設立。その後は訪日外国人の増加で環境が好転し、24年度は最高益を記録して、私はこの７月に本社に戻りました。

ジェットコースターのような経営者人生でした。「逆境と思えば苦しい、成功するか保証はない」、しかし「自分が学ぶ機会と思えば成長はできる」。多くの社員と前を向いて進み、多くの皆さんに支えられた４年間でした。ホテル業は、人々に喜びを与えることが仕事となる素晴らしい事業です。日本の宿泊業や観光業が持続可能に発展することで、この国の経済を支える基幹産業となることが、私の願いです。

マネックス証券　専門役員
チーフ・ストラテジスト／
帝京平成大学教授
広木　隆（59期）

生徒会誌「LAUREL」に前田先生が寄せられた「贈る言葉」が忘れられない。僕らが卒業する年には前田先生は高３の担任をされていなかったので、前の代の卒業生に向けた言葉だったと記憶する。先生は「ハムレット」の有名な台詞“To be, or not to be”の当時として最新の小田島雄志訳「このままでいいのか、いけないのか」を紹介された。それ以来、この台詞が頭から離れたことはない。僕はこれまで株式市場に関わる仕事をずっとしてきたが、所属した組織は国内の金融機関から外資系運用会社、自ら立ち上げたヘッジファンドなど様々で、その数は10社近くにのぼる。携わった仕事はどれもやりがいに満ちたものだったが、一方で常に「このままでいいのか、いけないのか」と自問を繰り返した結果である。

現在は証券会社で役員をしながら現役のストラテジストとしてテレビの経済番組でレギュラー・コメンテーターを務め､大学教授の職にもある。充実した日々だが、やはり自問は続く。そして還暦を超えたいま、新たなチャレンジとして起業の準備中である。同窓生の皆様にはご支援を賜れば幸いです。

そば・うどん 佐保多
店主
佐保田　豊（65期）

昭和63年卒業の佐保田豊と申します。私の家はJR横浜線中山駅前で、製麺業を営んでおりました。祖父や父の代までは、家族総出で早朝から忙しく働いておりました。しかし、時代の流れもあり、製麺業の売上は年々減少し、約20年前に、自宅の一部を改装してそば店を始めました。ほぼ未経験での飲食店スタートであったため、最初はお客様にもたくさんご迷惑をおかけしてしまいましたが、周りの人の助けもあり、何とか今でも店を続けられております。卒業後は、何人かの友人を除いてはほぼ浅野の方々とも没交渉でしたが、７・８年前にSNSを始めたことにより、同級生やお世話になった先生方も来店してくださるようになりました。また、友人が同窓会の役員をしていることもあり、今では先輩方や後輩たちにもしばしば来店していただいております。お客様の中にも浅野の卒業生の方がいて、ご贔屓にしてくださいます。「浅野」にはとても感謝しております。

株式会社横浜DeNA
ベイスターズ
岡本　邦彦（67期）

浅野で６年間野球部。1989年、高３最後の夏を４回戦で燃え尽き、受験勉強に切り替えた８月の思いをつづった作文が文集『銅像山』に掲載されました｡その時の文章を今でも覚えています｡「じっと手を見る～素振りで豆だらけだった手が、きれいな手をしているじゃないか」。その空虚感を埋めるためにいまだに野球から離れられないでいます。プロ野球「横浜ベイスターズ」に1997年に入社。企画やファーム、営業、ファンクラブ、エンタメ、チケットなど様々な業務を経験し、横浜スタジアムでたくさんの感動を色々な部署で見てきたし、生み出してきたつもりです。でも、その根底にあるのは高３の夏の大会１回戦、横浜スタジアム。勝利の校歌が流れる直前にチームメイトと見た、ビジョンに掲出された浅野の校章とその瞬間のスタンドからの歓喜の声。あのふるえるような感動を皆さんにお伝えしたいという思いです。あの夏から36年が経ち、髪は野球部時代の坊主頭より更に短くなって（失って？）しまいましたが、そんな感動をいまだに追い求めて、戦っています。

白石・穐吉法律事務所
弁護士
穐吉　慶一（75期）

東京で弁護士をしております。地元の友人や浅野の仲間らをはじめ、これまでいろいろな方々に散々お世話になり、迷惑もかけてきました。今はその人たちから相談を受けることもあり、「せめて少しは役に立てればな」と思いながら仕事しています。誰でも人生でゴタゴタに巻き込まれることはあるものですが、そんなときに横で「まあまあ」と声をかけられる存在でいたいです。

また、この時代だからこそ巡りあった特殊な仕事として、3.11原発事故の被害者と東京電力との和解あっせんや、旧優生保護法の被害補償に関わる活動にも携わりました（最高裁大法廷で弁論する経験まで！）。

気づけば高校時代の先生方の年齢を追い越しつつありますが、中身は相変わらず未熟でしょうもなく、それでも楽しくやっています。今後ともよろしくお願いいたします。

今浦行政書士事務所
行政書士
今浦太一朗（77期）

浅野在学中に同期達と立ち上げたフットサルチームは、部活でもないのに朝礼前に朝練し、夜もサッカー部より遅く残って練習する珍妙な集団。しかし、青春を共にしたその絆は今なお続く、浅野がくれた大事な繋がりです。私は、球蹴り好きが過ぎて、大学卒業後も就職活動はせず、アルバイト、派遣社員等でぶらぶらと球蹴り中心の生活。正社員として、真面目に働き出したのは30歳を過ぎた頃。その後、友人と起業して、レンタルスペース事業や飲食店事業等をした後に、現在は個人で行政書士事務所を営んでおります。

ひょんなことから40歳を目前に、畑違いの法律分野に飛び込んで、いろいろと大変なことはありますが、「九転十起」の精神でなんとか乗り切っております。ちなみに、転んだ回数より、起き上がる回数が一回多くないか？　なんて思うのは、私がちゃんと先生の話を聞いていなかったからでしょうか。とにかく最後に起き上がっていればそれでいい、その様に解釈して、今も頑張っています。